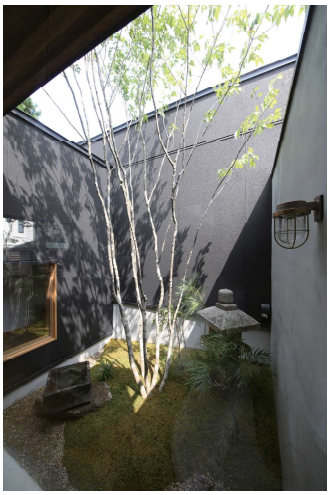
コートハウス。

zuiun便り vol.59

街中になればなるほど土地は小さくなり、隣地との離隔が取れず、「周りが密集して光が入らない」「窓の向かいに隣家の窓があって年中開けられない」という不満を抱えながら暮らしている人も多いだろう。

そんな密集する住宅地における問題点の一つの解としてコートハウスという形式がある。

建物の中心に壁で囲まれた家族だけの中庭を設け、その中庭に向かって窓を配置する。他人の目を気にしない窓は開け広げられ、光や風、開放感、眺望など全てを取り入れる窓本来の機能を果たすようになる。



家の外へ向いた窓とは違い、視線を遮るためのカーテンがいらず、夜でも中庭が室内の延長として帖数以上の広がりが得られるため、とても開放的な空間が手に入る。

半屋外空間としての中庭は、平日は物干し場として使用したり、休日はプール遊びやバーベキューなどの屋外空間として利用するなど目的に応じて使い分けできる。

小さいお子様が中庭でプール遊びをしていても道路に飛び出す心配はいらず、防犯性にも優れている。

外からは閉じたフォルムでありながら、室内は開放感と光に溢れるコートハウス。そこには自由な暮らしが実現できるプライバシーコントロールが存在する。

金沢の古き良き街並みが残る通り沿いに建つ今回のお家。周囲の風景に溶け込む落ち着いた和モダンの佇まい。

敷地は間口が狭く、奥に長い「うなぎの寝床」。

両側に建物が迫っているため、室内は暗くなりがちだが、中に入ると思いもよらず明るい空間が広がる。中庭が光の井戸の役割を果たし、リビングの奥まで光を導いてくれるからだ。

天然木を使用した木のぬくもりに溢れたリビングは優しく暖かな空気で肌を包み込んでくれる。

ソファに腰を下ろし、ガレージの愛車を愛でるひととき。

中庭で風に揺れる緑が自然と写り込んでくる。

外からの視線を気にしない中庭はリビングの一部となり、光や風、四季の移ろいを暮らしに与えてくれる。

無垢な美しさに囲まれて心も身体も開放され、日々のストレスを忘れさせてくれる心地よさ。

この建物を次世代に引き継ぐことを当初から考えていたお施主様。そのため内外部ともメンテナンスが極力必要ない素材を選定して次世代に負担をかけないよう配慮した。

和の素材の障子や格子戸、三和土を使用しつつ、和風になりすぎないシンプルなインテリアにしたのは飽きが来ないようにとの考えから。

自分たちだけではなく、次世代にも長くすみ続けられるよう配慮された住まい。この心地よさは未来まで続く。

（写真は過去内覧会物件です。）